

児童発達支援ガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 4名回答、回答率 100%

保護者様： 4名回答、回答率 80%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・現時点ではスペースに余裕があるが、今後ご利用者が増える場合はテーブルを増やす等の環境整備が必要となる。
- ・スケジュールはイラストカード等視覚支援を用いて掲示されている。児童が注意散漫にならない様に訓練室には療育に必要な物のみを置き、集中できる空間づくりを行っている。
- ・待合室や相談室など、児童が個別でクールダウンできるスペースを設けている。

○業務改善

- ・児童の支援や業務に関する課題について共有を行い、必要に応じて改善策が取られている。
- ・虐待防止や身体拘束適正化などの研修では、他教室職員が参加する事で外部意見を取り入れる機会を設けている。そこで得られた意見や課題について業務に取り入れている。
- ・定期的に社内の研修に参加し、教室内研修も実施している。

○適切な支援の提供

- ・毎利用ごとに、支援内容について保護者への共有を行っている。
- ・個別支援計画作成の際は面談を行い、子どもと保護者のニーズ、現状の課題に沿って個別支援計画の作成を行っている。
- ・個別支援計画の評価や目標作成の際は、職員で策定会議を行い、内容について検討している。
- ・毎月職員全員で活動プログラムを考えており、半年間の中で同じプログラムにならないよう工夫されている。
- ・ご利用ごとに療育記録を記入し、成長や課題に合わせて支援の改善が行われている。

○関係機関や保護者との連携

- ・保護者のニーズに合わせて保育所等と関係機関連携会議に参加している。
- ・就学時には保護者、学校、他事業所を含めた連携会議で情報共有を行っている。
- ・ご利用時にはその日の様子について情報共有の時間を設けている。

○保護者への説明責任等

- ・契約時に必ず事業所に関する情報や契約内容、支援に関する説明を行っている。
- ・氏名等の個人が特定される情報の取り扱いについて徹底されている
- ・イベント等の情報はチラシやメール配信に加え口頭での説明も行っている。

○非常時等の対応

- ・毎月災害などを含めた非常時を目的とした訓練を活動プログラムを取り入れている。
- ・基本情報確認シートにて事前に子どもの状況やアレルギーの確認を行っている。
- ・ヒヤリハットを作成し、業務前ミーティングで共有、再発防止策を話し合っている。
- ・やむを得ない身体拘束について個別支援計画に記載し、説明を行っている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・活動スペースは適切であるかに対して全回答者から「はい」とご回答いただいた。
- ・生活空間に関する質問にも全回答者から「はい」とご回答いただき、心地よく過ごせる環境だと思っただけしている。

○適切な支援の提供

- ・ニーズに合わせた個別支援計画の作成ができているかの質問には全回答者から「はい」とご回答いただいた。
- ・支援計画に沿った支援の実施がされているかの質問に対しても全回答者から「はい」とご回答をいただいている。

○保護者への説明等

- ・ほとんどの質問に「はい」とご回答いただき、日々の説明や支援についてご満足いただけていることが分かった。
- ・家族支援プログラムや、保護者会等の開催に関しては、全ての方が「分からない」とのご回答であったため、ニュースレターやブログを通して日々の様子を伝える工夫を行う必要がある。

○非常時等の対応

- ・ご利用開始から間もない方が多く、「わからない」とのご回答が多くあった。非常時の対応については、全ご利用者に知っていただくために周知方法の改善が必要。

○満足度

- ・子どもは通所を楽しみにしているかの質問に「まだ慣れていないし、本人の特性（個性）としてプレッシャーを感じやすいため」という理由で「いいえ」のご回答をいただいた。
- ・事業所の支援に満足しているかの質問に対しては全回答者から「はい」とご回答をいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

2024年2月開室の為なし

○改善できた点・まだ残る課題

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・教室までお迎えに来ていただいている保護者が多い為、教室を見る機会が多く、教室の環境についてご満足いただけている。
- ・利用毎にフィードバックを行う時間を設けている為、お子様のご様子を詳細にお伝えすることができたり、ご自宅や園でのご様子、保護者様のお悩みなどを毎回聞き取り、支援に活かすことが出来ている。

○改善点

- ・非常時対応についてお便りの配布を行ったものの、全体的に「わからない」との回答が多く、今まで以上にご利用者が分かりやすい様に工夫を行う。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・個別療育、小集団療育だけでなく、集団療育を行える様にご利用人数を増やす。
- ・研修を受講し、職員1人1人がスキルを磨くことでどのような場面でも対応できる力を身に着ける。

○1年間で取り組む具体策

- ・保護者会を開催し、保護者様同士の交流の場を設ける。
- ・非常時のマニュアルを作成、保護者様へ周知し、安心してご利用いただけるよう教室作りを行う。